

集会案内

- 毎日曜日： 祈 禱 会 1:15pm - 1:45pm
礼 拝 2:00pm - 3:20pm
ブレイク 3:30pm - 3:50pm
聖書研究 4:00pm - 4:50pm
- 毎月1回： 家庭集会 ラグナ・ウッズ又はアーバイン
10:30am - 昼食
- 出張礼拝 JPシニア・ホームズ
10:30am - 12:00pm
- 教会住所： c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637

- ★ 私達の礼拝は第1バプテスト教会グレース・ヒルズ教会堂内のチャペルで行なっています。
- ★ 子供たちのためのサンデー・スクールもあります。また、遊具等の設備も豊かに整っております。

地図



ホームページ： www.irvinenihongokyokai.org

 Irvine Nihongo Kyokai

連絡先： 榊原宣行 牧師 電話： (714)827-6244
Eメール： nobu@occc.org

杉村 宰 牧師 電話： (714)527-1456
Eメール： sugimura1950@gmail.com

◎ 石叫 ■

「ギリシヤ戦火秘話」

エーゲ海の港湾都市で約百年前、トルコとの戦争中に迫害されたギリシヤ難民八百人余りを、日本の商船が救ったとの逸話がある。だが資料が極端に乏しく「伝説の船長」（地元メディア）の名前など詳細は分かっていない。

「この船に乗った難民の、たとえ髪の一一本にでも触れれば日本への侮辱と見なす」。当時のギリシヤ紙や他紙の記事を総合すると、一九二二年九月、ギリシヤ人が多く住んでいた現在のトルコ西部イズミル（当時スミルナ）の港で、日本メニア人を救助したという。祖国解放を掲げていたトルコはスミルナ奪還作戦を進めていた。「スミルナの大火」と後に呼ばれ、町全体が炎に包まれる中、港に停泊していた各国の船は自国民を優先して助けた。しかし日本船の船長は絹や磁器などの高価な積み荷を全て海に投げ捨て、スペースを確保し、ちゅうちよなく人々を船に乗せたと当時の報道は伝える。

ヤニス・イトスさん（70）は「祖父から日本人に助けられたと繰り返し聞いた」と明かす。三十三歳だった祖父は料理人として出稼ぎ中にスミルナの大火に遭遇、着の身着のまま港に逃げ救助された。乗組員らが船上で箸と茶わんを使って米を食べていたのが珍しく、印象的だったと話していたという。アテネ近郊のピレウス港まで運ばれ、多くの人が身分証明がなく上陸が許されなかった際も船長が当局に「なぜ同じ言葉を受けないのか」と掛け合ってくれたと祖父は言っていた。「この素晴らしい話が歴史に残らないのは寂しい」。イトスさんは生きている限り、後世に伝えていくと語った。（テッサ口ニキ共同）

（『羅府新報』二〇一九年五月十一日付）
人命軽視が戦争であり、その犠牲者が難民である。弱い立場の者を助けるために高価な積み荷まで捨てて助けたというのは、弱者を見過ごしにできなかった彼ら日本人の高邁な精神によるものであろう。パウロは「弱い者を助けなければならぬ」（使徒行伝二〇・35）と命じているが、私たちこそ、かつては霊的難民であり、その私たちを沈没の危険どころか、命を投げ出してまでも救い出したのが船長の主イエスであったことを忘れてはなるまい。

Rev. Tsukasa Sugimura

「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。現在は、榊原宣行牧師の監督のもと、杉村宰牧師と啓子師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕士兄と、信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集会と、シニアホームでの出張礼拝を開いております。

「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的な事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令（マタイ28：18-20）に従って宣べ伝え、ホーネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。